

保護観察実務におけるコミュニティ・ジャスティスの 価値を思い描く

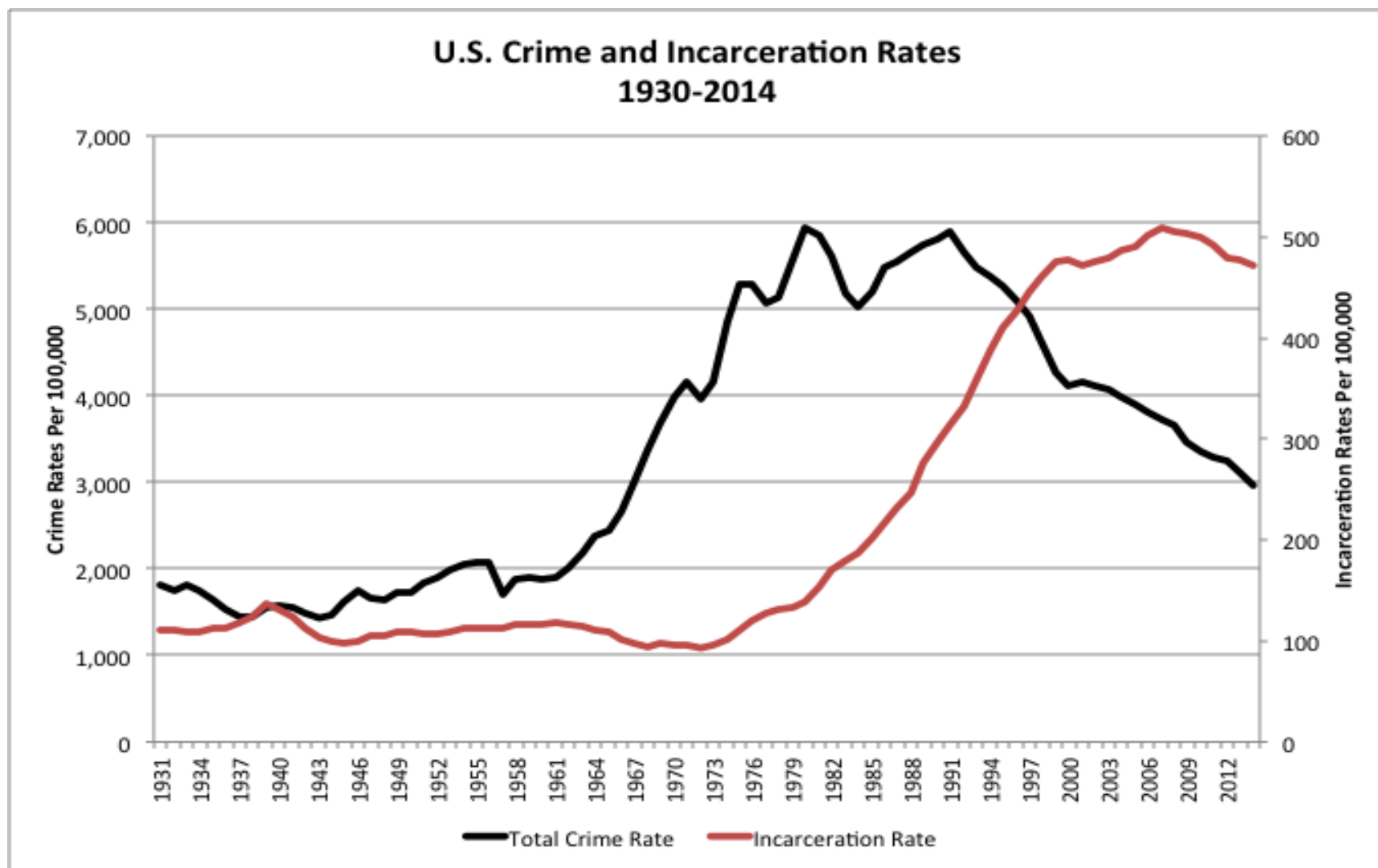
Todd R. Clear

第3回世界保護観察会議

日本 東京
2017年9月13日

社会内処遇 1970年代～2000年代

- 1971年のアッティカ刑務所暴動
- 2つの大統領犯罪委員会
- 犯罪との戦争
- 「犯罪を徹底的に取り締まること」を最優先する
- 党派に関係なく州及び連邦政府による改革



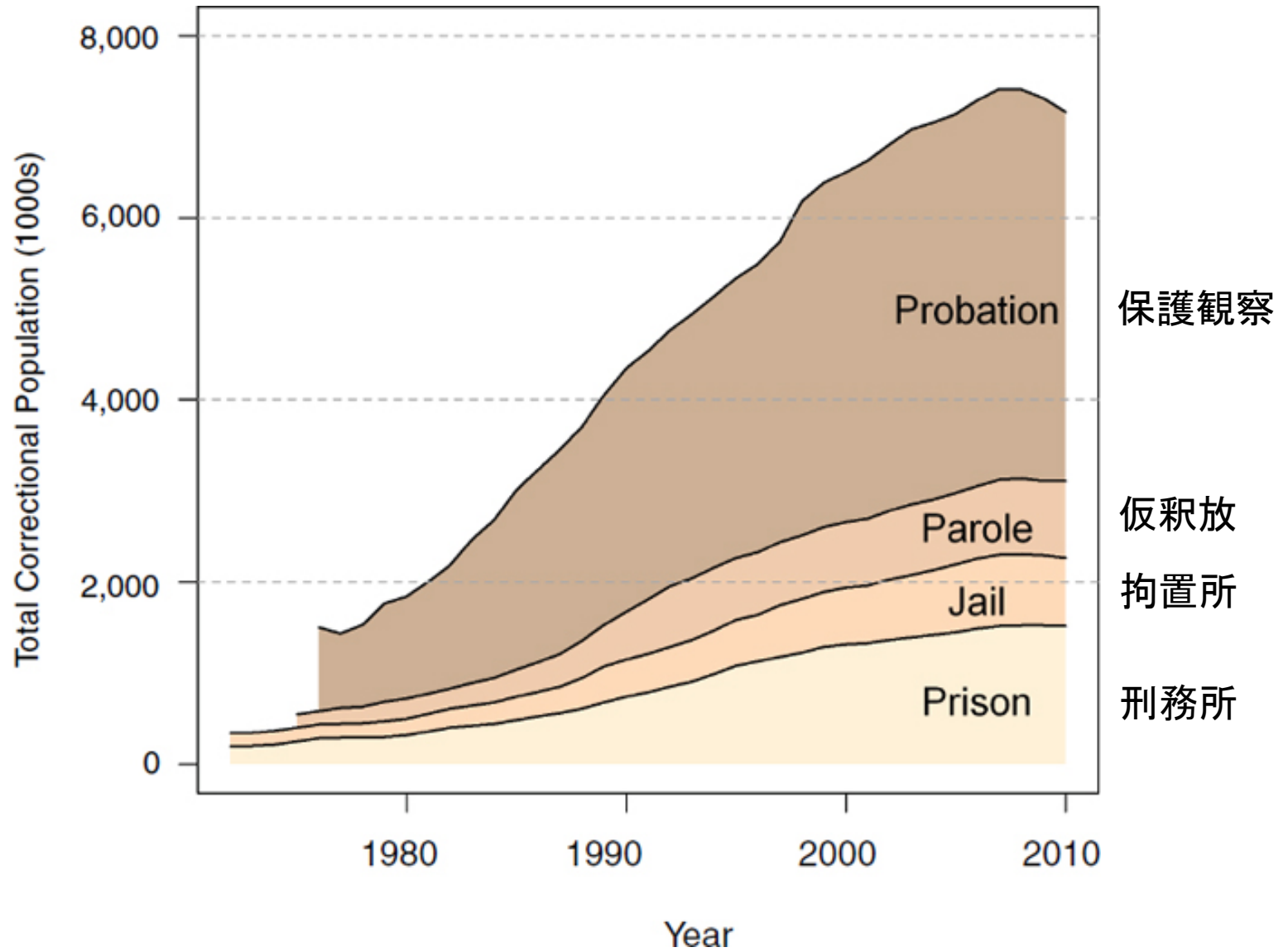
犯罪発生率

刑務所収容率

社会内処遇における「厳罰化」

- 「管理」の理論
- 徹底的な指導・監督
- 自宅拘禁
- 罰金・反則金
- 公然と恥をかかされること(批判・恥付け)
- ケース・マネージメント

制度の発展：1970年～2010年



米国の保護観察40年の結果：

社会内処遇を
社会内刑務所に変えること

2017年の保護観察に関する取組

- 価値観を重視する。
- 価値観を行動に転換させる方法を確認する。
- リーダーシップの意味を明確にする。
- 国内外での適用。
- 核となる概念：人間の変革力を信じる。

社会内処遇に関する ハーバード・エグゼクティブ・シリーズ

- 様々な分野のリーダー
- 一連の方針説明書
- 最終報告：21世紀の社会内処遇に関するコンセンサス・レポート
- 自分のために仕事をした！

本オリエンテーションでの私の呼び方： コミュニティ・ジャスティス

根底にある3つの価値観

- 幸福の原則: 基本的使命は、アメリカ社会の幸福および安全を追求することにある。
- 危害回避の原則: 国家権力を極度に制限して行使する。
- 人間の尊厳に関する原則: 指導監督下にある人を差別及び権力の乱用から解放されて当然の市民として扱う。

社会内処遇--

「...は、単純に、危害の軽減、秩序の維持、または制度の規模およびそれによって対処されるアメリカ人の数の最小化という目標によって導かれるものではない...[むしろ]より広範な刑事司法制度に正義と公正を組み込み...[また、][当該制度で捕らわれた]人々が刑事罰に処せられたときよりも良き親・兄弟、近隣者、及び市民になるよう支援することによって導かれるものである。」

価値観を行動に変える：標準

- 遅延／任意から迅速さ／確実さへ
- 大量の指導監督から集中的指導監督へ
- 孤立から統合へ
- 目立たない態度から明確な態度へ
- 取扱事件数主導型の資金提供から実績ベースの資金提供へ
- 「直感」から実証的根拠へ
- ローテクからハイテクへ

価値観を行動に変える: 革命的

- 失敗を罰することから成功を奨励することへ
- 時間ベースから目標ベースへ
- 短所ベースから長所ベースへ
- 犯罪者重視から被害者中心へ
- 個人重視から家族を巻き込む形へ
- 閉ざされた所から地域を舞台へ

結論

- コミュニティ・ジャスティス(保護観察や社会内処遇ではない)。
- コミュニティ、人間性、社会的正義の重要性。
- 核となる前提: より良い生活を送り、他者にプラスの影響を与え、仲間から敬意を表されたいと思うのが自然な人である。
- 上記を進めれば、成功する。